

平成 29 年度 美濃加茂市総合戦略推進アドバイザー懇談会（第 1 回）会議録

日時	平成 29 年 9 月 21 日(木) 10 時 00 分～12 時 00 分	
場所	第 3 議会委員会室	
委員	出席者 (敬称略)	【産】 (株) フジイ代表取締役 金森 薫 【官】 岐阜県女性の活躍支援センター長 原 永子 【学】 中部学院大学短期大学部幼児教育学科教授 杉山 祐子 【金】 東濃信用金庫美濃加茂支店長 渡辺 洋一 人材開発課 横山 幸子 【労】 ハローワーク美濃加茂所長 早崎 章
事務局	美濃加茂市経営企画部 部長：酒向 企画課 課長：佐藤 係長：井戸・山本 成栗、中尾、庄司、小畑	

1 開会

2 経営企画部長 あいさつ

人口減少、東京への一極集中を是正するため平成 26 年度まち・ひと・しごと創生法に基づき、国の総合戦略が策定された。地方創生には今後、国、県、市町村が一体となって取り組む必要があるため地方版の総合戦略の策定を求められ、平成 27 年末に完成した美濃加茂市の総合戦略が「Caminho（カミーノ）」である。総合計画を落とし込んだ形の自治体が多い中、美濃加茂市は、2060 年の人口 5 万 7 千人を目標に人口の自然増の目指すため若い女性をターゲットとした総合戦略をつくった。事業の進捗、さらなる PR のため忌憚のないご意見を頂戴したい。

3 委員紹介と委員委嘱

委員と事務局の自己紹介

4 カミーノ・アクションプランの改定について【資料 1】

事務局井戸係長から資料に基づき概要説明

事前に配布・検討を依頼していた素案からの変更点、各事業の概要について紹介
ご意見については、後の分科会にて頂戴する

5 地方創生推進交付金事業の評価について【資料 2】

- ・地方創生交付金（先行型～加速化～推進（拠点整備））の流れについて説明
- ・及び美濃加茂市がこれまで交付を受けた事業について紹介
- ・先行型交付金については、平成 27 年度実施、補助も単年のため事業概要、現在の事業実施状況について報告
- ・加速化交付金（二市連携 ICT 活用保育事業）、平成 28 年度推進交付金（姫 Biz 戦略事業）、地方創生応援税制（里山再生事業）対象事業について、事業概要説明、実績報告をした後、事業内容について検証した

【検証結果（委員からの意見）】

○二市連携 ICT 活用保育事業（加速化交付金対象事業）

- ・銀行での入金記録や通帳の受渡し等を管理するため iPad を導入している
当初はベテランに抵抗はあったが若手はスムーズに受入れ、現在は定着している
行動管理や自身の身を守る目的があるが、虚偽をシステム入力した場合の事実確認が困難であり、システム入力したことが事実になってしまう懸念がある
入力のルールづくりなど運用に難しさがあるか
- ・現状、保育現場で ICT の活用はなかなか定着していないのではないか
- ・ICT の導入は、ビックデータをとり業務を可視化できるところが最大の特徴であり、システムをどのように活用していくかが重要な点である
業務を効率化し保育士のイメージ向上、業務負担の軽減を図る⇒目的はとてもよい
- ・5 千万円という多額の費用をかけ、加速化交付金で導入し、継続事業として平成 29 年度推進交付金 2 次募集に申請中とのことだが、市単費でも継続し続けるのか？
- ・ただシステムを導入した場合、運用していくには簡易にシステムの更新ができない、維持管理のラーニングコストが経常的にかかるため、安易な導入は避けるべき
- ・保育の一番の目的はその保育園に預けてよかったと保護者が感じること
ICT を導入するメリットをいかに保護者に伝えていくか これが重要ではないか

⇒今後、注意深く事業を展開していく必要がある 展開を注視していきたい

○姫 Biz 戦略事業（地方創生推進交付金対象事業 平成 28 年度～30 年度）

- ・対象を中山道とすると空き家の少ないということから限界があるのではないか
雇用促進、新規出店の観点からは駅前や市街地にも対象を広げていく必要がある
- ・カミーノで取り組む意味 女性の出店を重視するなら対象を中山道にこだわることも悪くない
- ・中山道の活性化にこだわるのであれば、KPI については単に出店件数ではなく、中山道の活性化につながる KPI を設定する必要があると感じる

⇒交付金の終了を見据え、事業の方向性を明確に定める必要がある

○里山再生事業（ビジネスモデル構築事業）（平成 28 年度～31 年度）

- ・林業が安定的な就労につながるのか？ 儲かる仕事になるのか？
- ・里山の活用は良い取り組みだと思う
- ・就労につなげるためには、ビジネスモデル構築事業の展開に工夫が必要
- ・KPI の設定は直接的ではなく間接的である（林業従事者数）
- ・里山整備～ビジネスモデル構築～里山活用
一連の取組みの中でビジネスモデル構築として何に取り組むか ここが一番難しい

⇒ビジネスモデル構築として何に取り組むかを明確にし、事業を展開していく

関心のある企業についてはアドバイザーのネットワークで探ってもらう

6 意見交換会～カミーノの推進にあたって注力すべきこと～

○子どもを預ける場所について

- ・ 実際、隠れ待機児童というのは存在する。三和や山之上には、まだ空き有り。
- ・ 事業所内保育はどうか。
- ・ 人が本当に足りない。金融機関で事業所内保育を実施するには、平等性も確保する必要がある。
- ・ 美濃加茂市でも一部事業所内保育を実施しているところは存在する。

○補助金について

- ・ 県でも多様な補助金の制度はあるが、それが一般市民に周知がなされていない。
- ・ 育児等の相談でも、どの部署で聞けばいいのかわからず、窓口が煩雑となっている状況。
- ・ 県に問い合わせてもらえば、どこに相談をすればいいのか案内をすることができるため、まずは電話一本してもらうことが大切。

○逆に女性を大事にしすぎて失敗するケースも有り。過保護にしすぎることは良いことではない。

- ・ 普段の働きがあってこそその権利。働くことの自覚及び覚悟をどれだけ持っているのかが重要。
- ・ 雇用した側は、覚悟を持って働いている女性が、どうすれば育児等で働きづらい状況乗り越えられるようになるのかを考えている。

○事業に関する補助金や市税を投入することについて

- ・ 補助金、市税等の使い道であるが、お店を開いたからお金を支払うというものではだめで、その店舗が維持していくことが大切（姫 Biz 事業を例に）。開店したとしてもすぐやめてしまったら税金の無駄遣い。血税である以上、つくるだけではなく、そのあとのフォローが必要。
- ・ 感謝の気持ちが大切。子育て等の根底には「感謝」がある。お互いに思いやることで、幸せな生活を送ることができる。
- ・ ただ、相手に家事や育児など当てにしていはいけない。家事をどう楽しむのか。そういった工夫を考えることも大切である。

⇒他力本願にならないことで、自然とパートナーから「何かできることある？」と声が掛かるのが一番理想。

○美濃加茂市に住んでみようと思うきっかけは何か。

- ・学校が近くにあるのか
- ・買い物ができる場所が近くにあるか。
- ・実家の近く※
- ・交通の便（駅が近いかな etc...）

※他人には、まかせられないため、頼るのは両親。

⇒親が自分のまちの魅力を語ることができるかどうかが大切。その子どもの世帯が美濃加茂市に住むきっかけとなる。

- ・子どもが、保育園、小学校に上がる前に家を建てることが多い。

○保育園について

- ・兄弟でおなじところに入れないと辛い。
- ・未満児を預けるのに、地域によって待機児童がある（隠れ待機）
- ・美濃加茂市は大きい病院があることが強みとなっている。病後児保育は働くお母さんにとってはとてもありがたい。

○学童保育について

- ・受け入れ時間がニーズと合っていない。
- ・女性が仕事をするためには、働きやすい環境を整備することが1番重要。

○補助金について

- ・補助金があることを知らない。資料をもらってもよくわからない。補助金について一括でサポートしてもらえると場所があると良い。

○広報の方法について「どうすればより周知することが可能なのか？」

- ・1番は口コミ。お母さんたちが集まる場所でPRをすることが重要。
- ・かにさんくらぶを利用することも検討。可児市や御岳にも Caminho 事業についてPR可能。

【結論】

◎カミーノの推進にあたって注力すべきこと

⇒保育、学童に力をいれることで、女性がより働きやすい環境を創出する。

◎広報の仕方

⇒口コミで広げること及びかにさんくらぶの活用

7 閉会